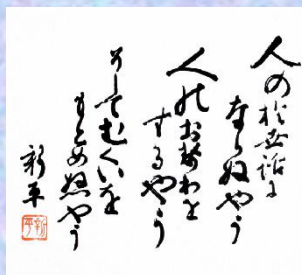




# 後藤新平記念館通信

奥州市立後藤新平記念館

R8年1月号



【自治三訣】

## 学びの深まり「輪読会」



当記念館で行われる催しの中に、後藤新平顕彰会による輪読会があります。この輪読会は顕彰会調査研究部会の活動として平成22年1月から開催され今年で16年目となる活動です。輪読会は後藤新平に関連する書籍を一冊選び、参加者で順番に読んで解釈し、お互いに意見を交わし合う会です。

今年最初の輪読会は1月22日(木)に行われ「後藤新平論集」(伏見岳人監修 藤原書店刊)を題材に8名の皆さんが参加しました。今回は新平が維新の元勳勝海舟、岩倉具視との面会を回想したもので、20代の血気盛んな新平の様子が伝わる文章で皆さん楽しく読み進めました。また学芸調査員の解説が入り、より深く内容を理解する機会となりました。参加された方からは「本の内容が更に深く理解でき楽しい」という感想が聞かれました。「輪読会」は奇数月の第4木曜日に開催されています。どなたでも参加できる会ですのでご興味のある方はぜひご参加下さい。

の解説が入り、より深く内容を理解する機会となりました。参加された方からは「本の内容が更に深く理解でき楽しい」という感想が聞かれました。「輪読会」は奇数月の第4木曜日に開催されています。どなたでも参加できる会ですのでご興味のある方はぜひご参加下さい。

### 【学芸調査員による一品紹介】

おおくましのぶ

## シリーズ後藤新平人脈考⑬「大隈重信」

教育者として優れた人材づくりに尽力し日本初の政党内閣を誕生させた大隈侯と、十九歳の年の差ながら後藤新平は性格上相共通する幾多の点がありました。

○徹頭徹尾陽性で楽天的 ○世界の大局を達観して日本の事相に対処せんとするの態度 ○想像力抱負 ○見粗放漫とみえて内心は用意周到に事を軽々しくせざるところ ○高談放語 ○客を引き、青年を近づけ、眼中何人も無きとき豪快さ

性格・心情は淡泊にして恩讐ともに洒然としてこれを忘れる底の襟度(度量)あり(正伝後藤新平第五巻より)

現在、二階コナーにおいて、一九一四(大正三)年に成立した第二次大隈内閣の中国に対する「対華二十一カ条要求」に不念を抱く新平の覚書や、大隈侯宛書翰(控)を公開中です。一時は新平による激しい糾弾を受けた大隈侯ですが、後藤新平日記に東京市長時代の新平が早稲田自邸に招かれた記述があり、「八億円の大改造計画」を後押しする大隈侯の懐の広さを感じます。(淑)

■後藤侯が有していた大隈侯肖像写真(後藤・安田記念東京都市研究所)

■絵はがき「大隈侯と後藤伯」



**企画展解説会のお知らせ** 現在開催中の企画展「ダンディー新平 絵葉書になる ～異国情緒と浪漫譚～」の解説会を2月1日(日)13時30分より当館で開催いたします。後藤新平にまつわる90点余りの絵葉書について学芸調査員が解説いたします。ぜひご来館下さい。